

令和2年度・令和3年度

鹿児島県租税教育研究委嘱校

租税教育の実際



令和3年11月25日（木）

日置市立土橋中学校

目 次

1	はじめに	2
	(1) 日置市の概要	
	(2) 校区の概要	
	(3) 土橋中学校の概要	
2	研究の概要	3
	(1) 研究主題	
	(2) 研究主題設定の理由	
	(3) 研究の仮説	
	(4) 租税教育の目標と実践内容	
3	研究の実際	4
	(1) 「租税教室」の実施	
	(2) 夏休み課題「税に関する作品」	
	(3) NIE 教育の活用	
	(4) 公民分野における授業での取組	
	(5) 「税」に関する書籍コーナー	
4	研究の成果と課題	16
5	おわりに	19

1 はじめに

(1) 日置市の概要

日置市は、県の西部、薩摩半島のほぼ中央に位置し、東は県都鹿児島市に、北はいちき串木野市と薩摩川内市に、南は南さつま市に隣接し、西は日本三大砂丘の一つ、白砂青松の吹上浜と東シナ海に面している。日置市は、妙円寺詣りや流鏝馬、せつぺとべに代表される歴史的な伝統行事に、薩摩焼や優れた泉質を誇る温泉など、古の情緒と安らぎに満ちた貴重な資源を数多く有している。これらの資源を活用しながら「住んでよし訪ねてよしふれあいあふれるまちひおき」をめざしている。(日置市HPより)

(2) 校区の概要

本校区は日置市伊集院地域の東部に位置し、鹿児島市と隣接している。鹿児島中央駅まで車で30分、日置市街地まで15分の距離にある。土橋小学校との1小1中の校区で、小中連携を長年推進しており、運動会をはじめ小中合同で行う教育活動も多い。

校区内には下土橋・上土橋・竹之山・中川の4つの自治会があり、土橋地区公民館を拠点として様々な活動が行われ、地域全体で子どもを育てる土壌ができています。

近郊農業が盛んで、様々な野菜等が栽培され、校区内にある都市農村交流施設 chests 館にも出荷されている。特に中川地区のイチゴ栽培は有名であり、特産品になっている。自然豊かな環境にあり、初夏にはたくさんのホタルが夜空を舞う光景が見られる。



(3) 土橋中学校の概要

本校は、今年で創立74周年を迎えている。令和3年9月現在の在籍生徒数は15名であり、極小規模校である。令和2年度から校訓を「同学 共働 琢磨」と改め、小規模校の特性を生かすとともに、長年の土橋小学校との連携や、学校への協力を惜しまない地域との連携などにより、特色ある教育活動を展開している。学校キャッチフレーズである「挨拶と花・歌声と朝ラン」を合言葉に、学校は活気があふれ、どの活動も生徒一人ひとりに役割が与えられたり、生徒会が主体的に運営に加わったりするなど「一人ひとりが輝く」ことができるよう活躍の場が設定されている。

2 研究の概要

(1) 研究主題

租税教育を通して、税に対する興味・関心を高めるとともに、税に関する知識を高め、社会を支える態度や資質を育成するにはどうすればよいか。

(2) 研究主題設定の理由

税は国民生活や経済社会と密接に関係している。そして、我々の暮らしに欠かせない多くの公共サービスを提供する国や地方公共団体の財源の源であり、国や地方公共団体の発展や維持には必要不可欠なものである。しかし、生徒にとってはなじみのない遠いものとして捉えられがちである。本校においても、日頃から、税に関するニュースに関心をもっている生徒は少ない。そこで、少しでも生徒が税に対する関心を高めていくことができるよう実践を深めていきたいと考えた。

租税教育の目指すものは、「平和的な国家及び社会の形成者としての資質を養い、生徒を取り巻く身近な事象を捉えてこれを民主的な観点に立って深く考え、更に望ましい実践的な態度や習慣を身に付けさせていく」ことである。

また、鹿児島県における租税教育は、「租税に関連した事項を通して郷土について関心を高め、公民としての資質を身につけ、国家及び社会における権利と義務の主体者として自主的に判断し行動するための諸能力を育てる」ことにねらいを置いている。

社会科の学習では、歴史的分野の中で、古代にはじまった「租庸調」、近世には「太閤検地」、近代では「地租改正」、公民的分野では「納税の義務」・「地方財政」・「社会保障」などを学習している。しかし、生徒の税への関心は高まっているとはいえ、身近な生活の中でどのように税が活用されているのかをきちんと理解している生徒は少ない。

生徒の税に関するイメージは、生徒自身が日頃の買い物などで商品代にプラスして消費税を払っていることもあり、あまり良好なものではない。また、ニュース等でも耳にすることも「脱税」や「税金の無駄遣い」などといったマイナスの事柄が多いようである。そのため、税の必要性を何となく感じてはいるが、果たしてそれがきちんと使われているのか関心を寄せている生徒は少ない。

そこで生徒には、「租税教育」を通して、「租税」がいかに大切なものであるかということを理解させ、将来において「納税の義務」を果たす公民的資質や、国や郷土を大切に思う態度を育成し、国や郷土の発展のために「租税」はなくてはならないものであるという認識を持たせたいと考え、本研究主題を設定した。

(3) 研究の仮説

【仮説 1】

身近な社会生活と租税との関連について学ばせることができる掲示を工夫したり、授業実践をしたりすることによって、税の使われ方について関心を持たせることができるのではないか。

【仮説 2】

租税の意義や大切さを身近な生活との関わりを通して考えることができる授業実践を工夫することによって、納税意識を高めることができるのではないか。

(4) 租税教育の目標と実践内容

ア 租税教育の目標

- 生徒の税に対する興味・関心を高める。
- 税の役割や種類、用途等について正しい理解と知識を深める。
- 税について知ることにより、現在や将来の社会を支える一員としての意識を育てる。

イ 実践内容

- (1) 伊集院税務署・九州財務局鹿児島財務事務所による「租税教室」の実施
- (2) 夏休み課題「税に関する作品」
- (3) NIE 教育の活用
- (4) 公民分野における授業での取り組み

3 研究の実際

(1)「租税教室」の実施

ア 令和 2 年度租税教室 ～令和 2 年 7 月 2 日(木)5 校時 全校生徒 12 名
講師：伊集院税務署職員

【ねらい】

- 租税の意義や役割を正しく理解させる。
- 社会の構成員として税を納め、その使い道に関心を持たせる。
- 納税者として社会や国の在り方を主体的に考えるという自覚を育てる。

【実施内容】

- ① はじめの言葉
- ② 講師紹介
- ③ 税の種類や仕組みなどに関する講話
- ④ 生徒代表お礼の言葉



はじめに、日本の税の歴史や、現在ある税の種類などについて、パワーポイントを使って詳しい説明を受けた。現在、国の歳出が増える一方、税金は伸び悩んでいることで国の借金(国債)が増えていることや、納税者の負担がこのままではどんどん増えていくことなどを学んだ。

また、税を負担する場合、どのような税の徴収の仕方が公平であるのかをそれぞれのグループで考えさせた。

例えば、① 高所得者に多く負担をしてもらう。(累進課税的な考え方)＝垂直的公平

② 消費税のように多くの人から同じ税率で税を負担してもらう。

(同率課税)＝水平的公平

どちらの方法がよいか考える場面では、真剣に税の徴収の仕方について考える姿が見られた。



生徒の感想

・ 私の知っている税は消費税くらいしかありませんでした。しかし、今日、税金は 50 種類もあると聞いて驚きました。国によって、消費税は大きく変わるので、まだ日本は低いほうでよかったです。「みんな公平に税金を支払わないといけない」と言われたとき、どのように分けたらよいか困りました。みんな同じ率だと収入が低い人がかわいそうだし、収入が高い人だけが払うのも不公平だし、とても難しいです。(1年生)

・ 今日、税についてしっかりと理解することができた。借金大国・日本の今の情勢について理解できた。今の消費税では、日本の経済を取り戻せないということも聞いたし、これからもっと税が多くなって行って生活が厳しくなると思うと、少し悲しい。僕は、将来、いつか税金が少なくなって暮らしやすい社会にしていきたいと思った。(2年生)

・ 自分に関係のないと思っていた税も身近に感じるすることができたし、日本の状況についても学ぶことができた。これから先の人生に多く関わるものだと思うので今日の授業を忘れずにいたい。とてもいい時間だった。特にたった2年くらいで借金がものすごく増えたことに驚いた。その借金が少しでも少なくなって欲しい。(3年生)

イ 令和3年度租税教室 ～令和3年7月2日(金)5・6校時 全校生徒15名

講師：九州財務局鹿児島財務事務所職員 伊集院税務署職員
鹿児島税務署職員

【ねらい】

- 日本の財政の現状を理解するとともに、私たちの生活の中に税がどのように使われているか理解させる。
- 体験的な活動を通して、日本の財政について話し合い、税の必要性について理解させる。
- 納税者として社会や国の在り方を主体的に考えるという自覚を育てる。

【実施内容】

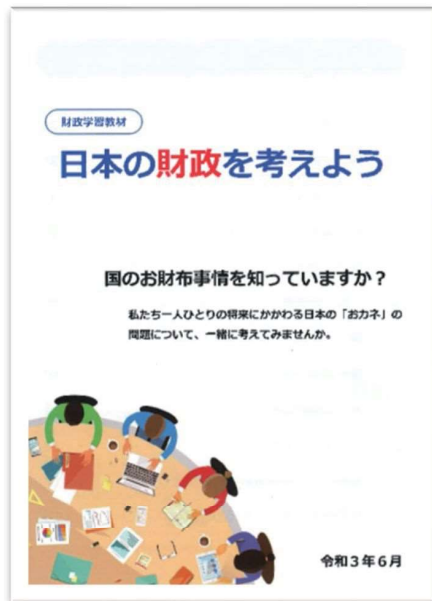
- ① はじめの言葉
- ② 講師紹介
- ③ 税務署職員講話
- ④ グループワーク(タブレットを用いたシミュレーション学習)
- ⑤ グループの発表
- ⑥ 生徒代表お礼の言葉
- ⑦ 終わりの言葉



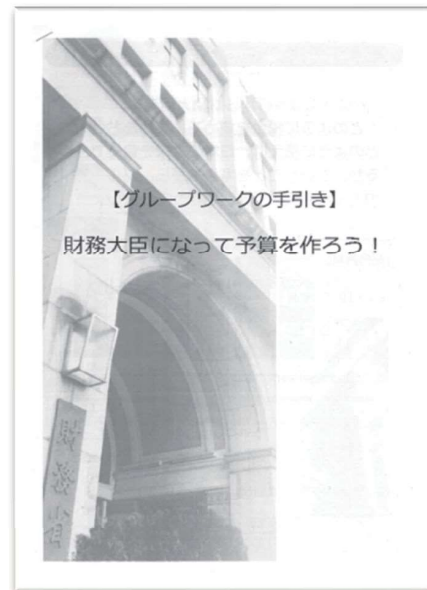
はじめに、九州財務局鹿児島財務事務所職員の方から、財政学習教材「日本の財政を考えよう」というパワーポイントを使用して、財政に関する詳しい説明を受けた。2年生と3年生は、昨年度の財政に関する知識を深め、1年生は、国の歳入や歳出においてお金をどのように集めているのか、どこに集めたお金を使っているのかなどの新しい知識を身に付けていた。

また、国の借金の状況について説明していただいた際に、生徒は、想像以上の借金の多さや他の主要先進国の中で最悪の水準であることに、特に関心を示している様子であった。

説明を受けた後は、学年ごとに3つの班に分かれて、グループワークを実施した。今回のグループワークは、タブレットを用いたシミュレーション学習で、自らが財務大臣になり、グループのみんなで国の予算案を作成し、発表を行った。各班は、自分たちで「将来こんな国になったらいいな」というように、それぞれテーマを設定し、タブレット内のエクセルを用いてテーマに沿うよう予算について話し合いをしていた。また、ワークシートには、自分たちのグループの予算案の中でどのようなところに注目して欲しいかアピールポイントを踏まえながら書き込みを行っていた。



【講義資料】



【グループワーク資料】



【講話を聴く生徒たち】



【予算について話し合う生徒たち】



【タブレットを用いて予算作成】



【1億円のレプリカを持つ生徒たち】

予算案の作成については、歳出・歳入のどちらも編集を行うことができ、歳出は「社会保障(年金・医療・介護・子ども子育て・生活保護ほか)」、「地方への交付金」、「公共事業」、「防衛」、「教育」、「その他」のそれぞれの項目で予算の増減を考えた。また、歳入は「所得税」、「消費税」、「法人税」、「その他の税収(ガソリン・酒・たばこなど)」のそれぞれの項目で予算の増減を考えた。

1 班の予算案を例に挙げてみると、1 班の予算案のテーマは、「教育の充実」で、特に若い世代に向けた予算の組み方をしていこうという考えであった。そのため、歳出では社会保障の「子ども・子育て」の項目で30%の増額、「教育」の項目で100%の増額というように、実際に実行するには難しいものの、テーマに沿った増額を行っていた。歳入においても「消費税」や「その他の税収(ガソリン・酒・たばこなど)」を増額するなどの財源の確保をしようとしていた。結果として、借金の総額が増えることになってしまったが、これらのことから、自分たちの実現したいテーマに沿って、予算案を作成することの難しさを知ることができたと考えられる。

3 つの班すべてが自分たちで作成した予算について発表し、それぞれ特色あるテーマであったため、生徒たちが自ら他の生徒の意見に耳を傾け、税への関心を高めることができた。

また、授業間の休み時間には、1 億円のレプリカを手にとって確認し、生徒間で実際の1 億円の重さや大きさについて意見を出し合っていた。

グループワークシート 【財務大臣になって予算を作ろう！】

_____ 班

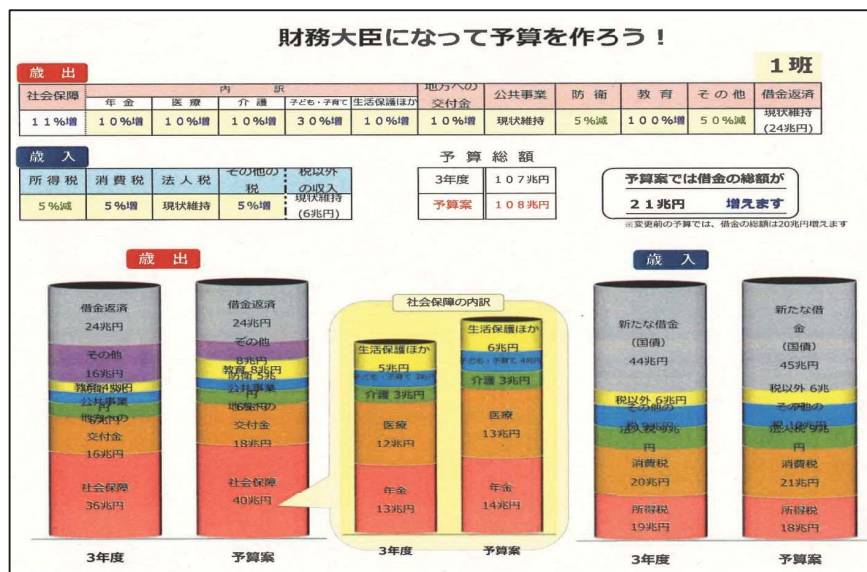
1. 予算案のテーマを決めよう。 (例) “高齢者に優しい社会”、“教育の充実” など

教育の充実 (例) 税金の徴収、体育館の空調、校舎の工事など

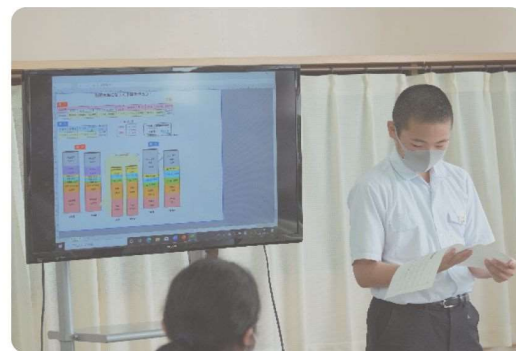
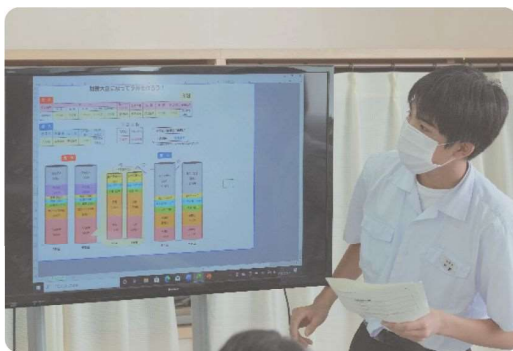
2. グループで理想の予算を考えよう。グループで話し合った内容(増減した理由など)をシートに書き込みながら進めてください。

歳出予算	歳入予算
<p>① 社会保障</p> <p>① 年金 <input type="checkbox"/>増額 (77)% <input type="checkbox"/>現状維持 <input type="checkbox"/>減額 ()% 理由: 自分達が将来 関係することになるお金だから。</p> <p>② 医療 <input type="checkbox"/>増額 (10)% <input type="checkbox"/>現状維持 <input type="checkbox"/>減額 ()% 理由: 医療は人間にとって大切なことだから。</p> <p>③ 介護 <input type="checkbox"/>増額 (70)% <input type="checkbox"/>現状維持 <input type="checkbox"/>減額 ()% 理由: 自分達が将来 関係することになるお金だから。</p> <p>④ 子ども・子育て <input type="checkbox"/>増額 (30)% <input type="checkbox"/>現状維持 <input type="checkbox"/>減額 ()% 理由: テーマが「教育の充実」だから。</p> <p>⑤ 生活保護ほか <input type="checkbox"/>増額 (77)% <input type="checkbox"/>現状維持 <input type="checkbox"/>減額 ()% 理由: 生活に困っている人を支えたいから。</p>	<p>② 地方への交付金 <input type="checkbox"/>増額 (70)% <input type="checkbox"/>現状維持 <input type="checkbox"/>減額 ()% 理由: 鹿児島に必要なお金だから。</p> <p>③ 公共事業 <input type="checkbox"/>増額 ()% <input type="checkbox"/>現状維持 <input type="checkbox"/>減額 ()% 理由: 今、問題になっていないから。</p> <p>④ 防衛 <input type="checkbox"/>増額 ()% <input type="checkbox"/>現状維持 <input type="checkbox"/>減額 (5)% 理由: 今、戦争が起きていないから。</p> <p>⑤ 教育 <input type="checkbox"/>増額 (100)% <input type="checkbox"/>現状維持 <input type="checkbox"/>減額 ()% 理由: テーマが「教育の充実」だから。</p> <p>⑥ その他 <input type="checkbox"/>増額 ()% <input type="checkbox"/>現状維持 <input type="checkbox"/>減額 (50)% 理由: 100%にしてしまうと、その他の中に入っているか分からなくなるから。</p>
	<p>⑦ 所得税 <input type="checkbox"/>増額 ()% <input type="checkbox"/>現状維持 <input type="checkbox"/>減額 (5)% 理由: 他にも、消費税でお金がどんどん減っていくから、少しでも個人から払うお金を減らしたいから。</p> <p>⑧ 消費税 <input type="checkbox"/>増額 (5)% <input type="checkbox"/>現状維持 <input type="checkbox"/>減額 ()% 理由: 外国に信用されるため。</p> <p>⑨ 法人税 <input type="checkbox"/>増額 ()% <input type="checkbox"/>現状維持 <input type="checkbox"/>減額 ()% 理由: 法人税で困っていることはあまりないと思、たから。</p> <p>⑩ その他の税収(ガソリン・酒・たばこなど) <input type="checkbox"/>増額 (5)% <input type="checkbox"/>現状維持 <input type="checkbox"/>減額 ()% 理由: 酒やたばこで病気になる人が増えてしまうから。</p>

【ワークシート】



【タブレットで制作した予算案】



【予算案を発表する生徒たち】



【講師の方に評価を頂く生徒たち】



【代表生徒によるお礼の言葉】

生徒の感想

- ・ 税金についてグループで話し合うことができてよかった。みんなと意見を交換することもできてうれしかった。これからも税に関することがあったら、少しでも目を向けてみたい。(1年生)
- ・ パンフレットやタブレットを使って分かりやすかった。たくさんの税があって大人になって、使い分けが大変そうだと思った。税にもまだわからないことがたくさんあった。少しでも税について知ることができてよかった。(2年生)
- ・ 今回、税金について考えて、税金で私たちの身の回りは成り立っているのだと感じました。また、いろんな税金によって多くの国や地域の役に立っていると聞いて驚きました。まだまだ税金について知らないことが多いので学んでいきたいです。(2年生)
- ・ 私は、税についていままで興味をもっていなかったのですが、今日、自分たちが財務大臣になって税を考えることができ、すごく楽しかったです。いままでもこれからも自分たちにとっても関係してくるので知っておきたいです。(3年生)

ウ 令和3年度職員研修・家庭教育学級 ～令和3年度7月2日(金)放課後
教職員および保護者

講師：九州財務局鹿児島財務事務所職員

租税教室の実施後、家庭教育学級と職員研修を合同開催した。租税教室に続き、九州財務局鹿児島財務事務所職員の方から、令和3年度版「日本の財政関係資料」(九州財務局鹿児島財務事務所)をもとに、財務省の資料を併用して、説明を受けた。主に、社会保障に関することや「一般政府債務と家計金融資産の推移」、「高齢化の国際比較」を中心に学び、保護者から質問等もなされた。深く調べなければ、知ることのできないような情報もあり、職員と保護者ともに、学びを深めることができる、非常に有意義な時間となった。



(2) 夏休み課題「税に関する作品」

本校では夏休み課題として、毎年、租税教育推進協議会が実施している「税に関する作品」に取り組んでいる。令和2年度、3年度ともに社会科の夏休み課題として取り組み、全生徒が作品を出品した。次の作文は令和2年度に特別支援学級に在籍する生徒が書いた作文である。税に関する素直な気持ちがまとめられている。

「身近な生活の中にある税金」

私は今まで、税金が嫌いでした。いろいろなものに税金がかかっている、正直なところ税金は必要ないと思っていました。でも、今年、学校で受けた「租税教室」で、税について詳しく勉強してその考え方が間違っていたと感じました。なぜなら私たちの払っている税金は、医療費負担や年金、生活保護費など困っている人たちのために使われていることが分かったからです。また他にも道路を作ったり公園を作ったりと多くの人々が喜ぶものを作っていることもわかりました。

そして、いろいろな税金の使い道の中で、私の目に留まったのは「義務教育」という項目でした。私たちが毎日勉強をしている学校の校舎や授業を受けるのに必要な教科書などはすべて税金で賄われていることがわかりました。私は今までこんなに身近なものにまで税金が使われているとは考えたこともありませんでした。義務教育にたくさんお金が使われていることに驚きました。校舎があること、そこで授業を受け、友達と楽しく学校生活を送ることができるのも当たり前のことだと思っていました。また、学校の電気代や水道料金も税金から支払われていると母が教えてくれました。でもそれは、決して当たり前のことではなく、私の父や母をはじめとする多くの大人の方々が納めてくれた税金によって支えられている部分が大きいのだと改めて感じる事ができました。だからこそ、その楽しい毎日を作ってくれている税金を大事にしなくてははいけないとも思いました。

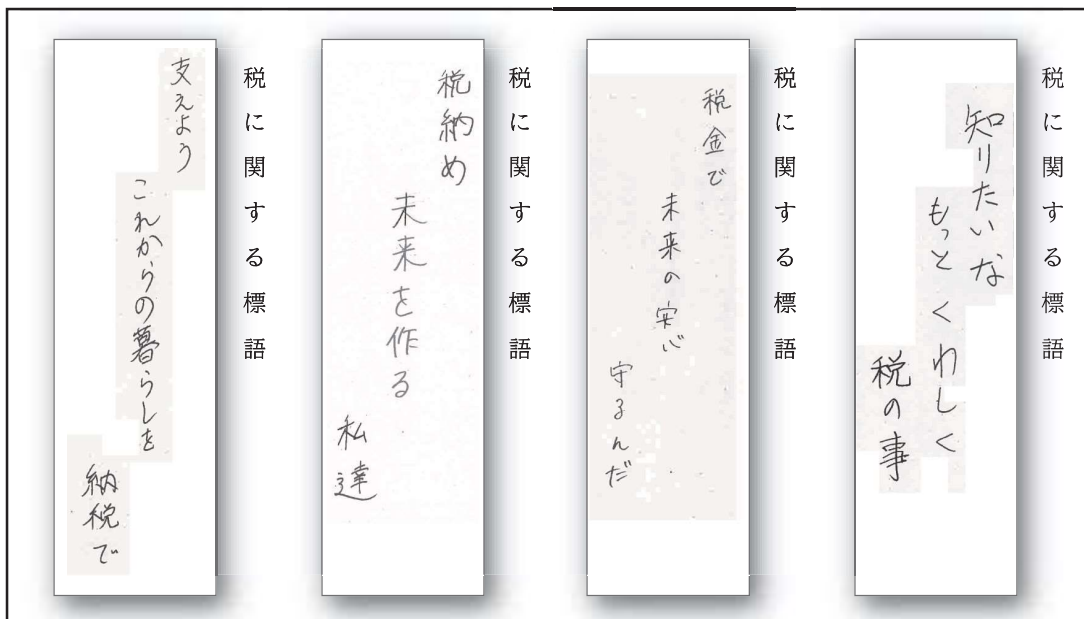
これからは、私は無駄づかいをしてしまうので、お金を大事に使いたいです。ただ私が払った税金は医療にも使われているので、多くの人の手助けになっていると思います。私もいろいろな所で、人の手助けができるようになりたいと思っています。自分が気づかない所で、たくさんの人に支えられていることが分かってうれしかったです。お互いに助け合えるように、大人になったら一生懸命働いてしっかり税金を納めたいです。

申
告
確
定

納
税
自
主

納
税
振
替

【 税に関する習字 】



【 税に関する標語 】

(3) NIE 教育の活用

本校は、令和元年度、令和2年度の2年間NIE実践校として、NIE活動の推進に取り組んできた。そこで、新聞を活用して税に関する学習を深められないだろうかと考え、校舎2階に掲示コーナーを作った。休み時間等ながめて、生徒同士で話題にする様子も見られた。また掲示コーナーでは、租税教室で作成したワークシートや予算案の掲示も行っており、横の新聞記事と比較することができるようになっている。このコーナーは、生徒の関心を高めることに役立っており、今後さらに充実させていきたいと考えている。



【NIEコーナー】



【租税教室の発表資料】

(4) 公民分野における授業での取組

3年生は公民的分野「政府の役割と国民の福祉」の単元で税について学習する。この単元では身近な社会資本や公共サービスの提供を行う政府の役割や、財政や税金の役割、少子高齢化における社会保障のあり方などの日本の財政の課題について学ぶ。この単元の4時間目に行った「少子高齢化と財政」の授業を紹介したい。この授業では、日本の社会保障の在り方を考えさせてみた。



ア 単元の指導計画

時	主な学習内容	学習目標	評価規準
1	私たちの生活と財政	<ul style="list-style-type: none"> 統計資料をもとに国の歳入と歳出について調べ、財政について関心を持つ。 税金の種類や仕組みについて理解し、税金の公平な負担について多面的・多角的に考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> 税金の公平な負担について政府や納税者などの立場から多面的・多角的に考察し、公正に判断している。(思考力・判断力・表現力) 財政と税制のあらましについて理解し、その知識を身につけている。(知識・技能)
2	政府の役割と財政	<ul style="list-style-type: none"> 身近な社会資本や公共サービスについて調べ、政府が果たしている経済的な役割を理解する。 公債発行の実態と課題について話し合い、財政の在り方について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 政府の経済的な役割に関心を持ち、身近な生活から事例を探し、積極的に話し合いに参加している。(学びに向かう力・人間性) 公債の発行について、納税者などの様々な立場から多面的・多角的に考察して、公正に判断し、自分の考えを表現している。(思考力・判断力・表現力)
3	社会保障の仕組み	<ul style="list-style-type: none"> 社会保障の意義と働きについて、その考え方が生まれた歴史的背景を踏まえて理解する。 社会保障の基本的な考え方と日本の社会保障のあらましについて理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会保障の考え方が生まれた歴史的背景とその意義について歴史的分野の学習内容を踏まえて考察している。(思考力・判断力・表現力) 社会保障の基本的な考え方と日本の社会保障のあらましについて理解し、その知識を身につけている。(知識・技能)
4	少子高齢化と財政	<ul style="list-style-type: none"> 少子高齢化の進展と社会保障の在り方について、さまざまな統計資料を読み取り、現状や課題を理解する。 日本の社会保障と財政の在り方について、他国の事例と比較するなど多面的・多角的に考察し、話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 少子高齢化社会における財政の在り方について、身近な生活の事例や諸外国との比較を通して多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。(思考力・判断力・表現力) 少子高齢化の進展と社会保障の現状について、新聞記事などの資料を読み取っている。(知識・技能)

イ 授業の実際

過程	主な学習活動	指導上の留意点
導入 (15分)	1 小テストをする 2 年を取って働かなくなったら、どこから収入を得ればよいか考える。 ・ 貯金しておく。 ・ 年金をもらう。 3 日本の人口と人口構成の変化や社会保障給付費の推移のグラフから読み取れることを発表する。 ・ 高齢者の割合が増えている。 ・ 子供の割合が減っている。 ・ 人口が減少して、働く人の割合も減っている。 ・ 給付費が増えている 4 学習目標を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 少子高齢化は日本の財政にどのような影響を及ぼすのだろうか。また、日本の社会保障と財政の在り方はどうあるべきだろうか。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時の内容を確認する。 ・ 「年金」という言葉が出てきたら、詳しい生徒に説明させる。 ・ 日本の現状やこれから先の様子をしっかりと捉えさせる。 ・ 「少子高齢化」という言葉が出てきてから学習課題を設定する。
展開 (30分)	5 介護保険制度や後期高齢者医療制度の説明を聞く。 6 日本の社会保障と財政の在り方を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後、社会保障給付費が国家予算をさらに圧迫していくことを理解させる。 ・ お互いの意見を確認することで、さまざまな考え方があることに気づかせる。
終末 (5分)	7 本時のまとめをする。 8 次時の予告をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 少子高齢化を抱える日本の財政をどうすべきか自分なりの言葉でまとめる。

上記の授業の実際展開の6「日本の社会保障と財政の在り方を考える」活動の部分では、次のような考え方(意見)を提示した。

- ① これからの日本の社会保障の在り方について最も良いと思う意見を選び、自分の意見を発表する。
- A 北ヨーロッパの国々のように社会保障を手厚くする。その分国民の負担も大きくする。
- B 今の社会保障の水準を維持すべき。そのための負担の増加はやむを得ない。
- C 今の負担の水準を維持すべき。そのための社会保障の切り捨てはやむを得ない。
- D 国民の負担は少なくするべき。その分、社会保障の切り下げはやむを得ない。

- ② 社会保障の給付と負担はどのように配分し、分担するべきか自分の考えに近いものを選び、自分の意見を発表する。
- a 子供を育てるにはお金がかかる。少子化を改善するためにも子育て世代への手当を厚くして負担は軽くすべき。
 - b 若者の就職先も少なく、雇用も不安定。働く人への支援を充実させて、負担はどの世代も平等にして欲しい。
 - c 定年退職すると、暮らしは年金に頼りがち。年金や介護を充実させ、高齢者への負担は軽くすべき。

①では、

A 0人 B 1人 C 2人 D 0人 という結果であった。

〈Bに賛成した生徒〉

- ・ 病気になったらきちんと治療が受けられたり、学校へも通えたり、安心して生活することが大事だと思うから。

〈Cに賛成した生徒〉

- ・ これ以上負担が増えると生活していくのが大変だと思う。
- ・ 社会保障は大事だと思うけど、今の収入でできることを考えて、今までとは違うお金の使い方を考えないといけないと思う。

②では

a 2人 b 1人 c 0人

〈aに賛成した生徒〉

- ・ 子どもたちを安心して育てることができれば、少しは少子化が改善して、税収が増えるかなと思ったから。
- ・ 子どもを育てるのは大変だと思うしお金もかかるから、手当を厚くして負担は減らすべきだと思うから。

〈bに賛成した生徒〉

- ・ 税金を納める人の収入が安定しないと、集まる税も安定しないと思うから。
- ・ 税収を増やすためにも働く人の生活を安定させないといけないと思うから。

それぞれの考え方を選択した生徒は、根拠を説明できていたが、お互いの意見を聞いて深めるまでには至らなかったのもっと揺さぶりをかける授業の在り方を考える必要があったと反省している。

(5) 「税」に関する書籍コーナー

学校司書の協力を得て、図書室に「税」に関する書籍を集め、「税の学習コーナー」を設けてもらった。「税に関する作品」の制作に用いるだけでなく、実際に借りて読む生徒もおり、興味を持って税に関する内容に触れることができている。

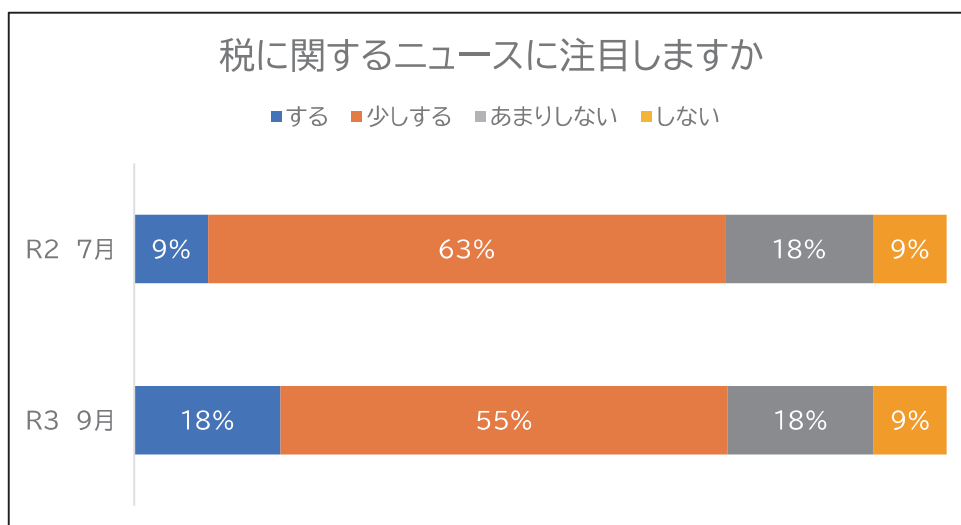
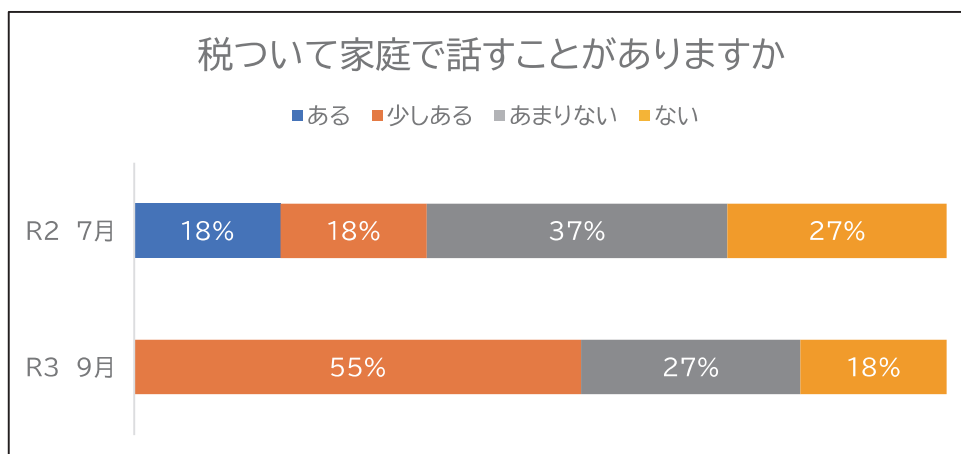
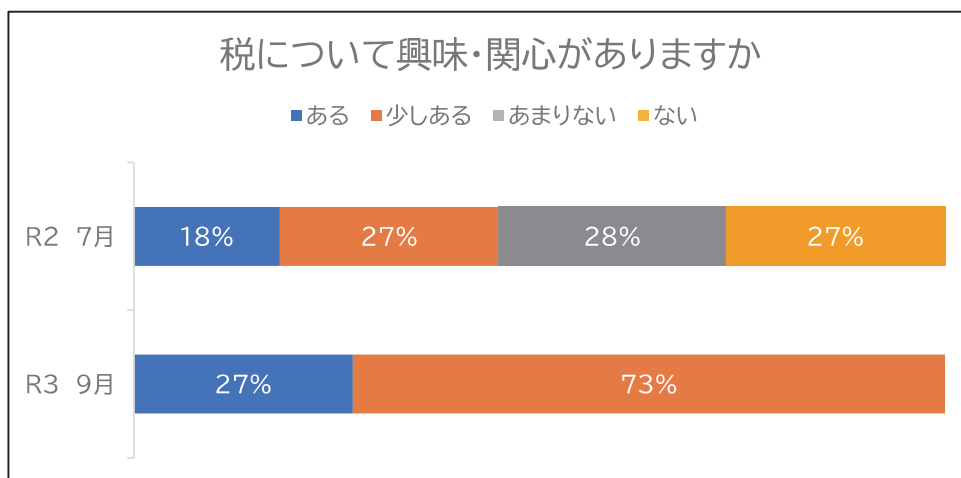


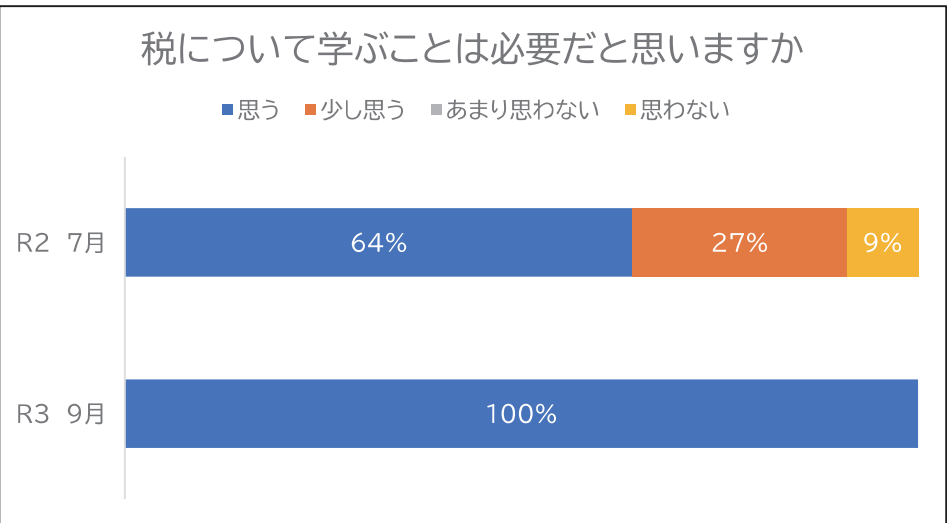
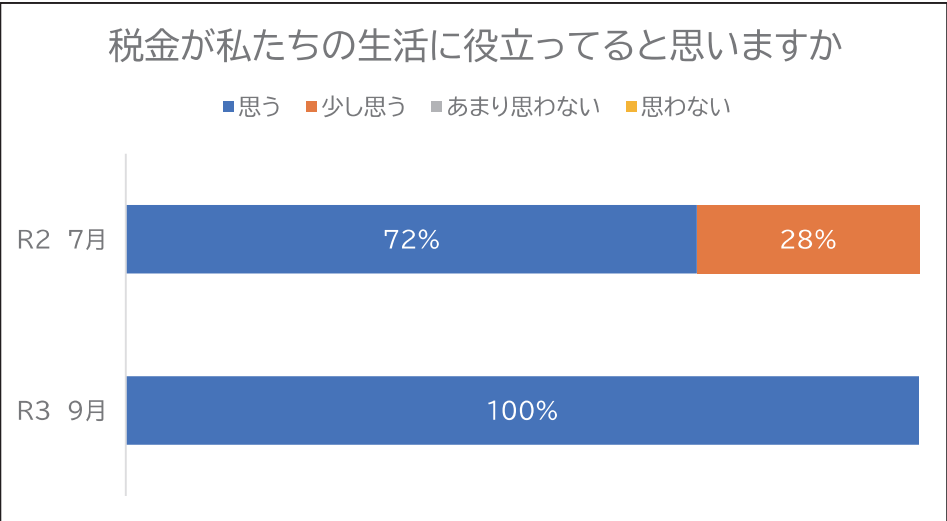
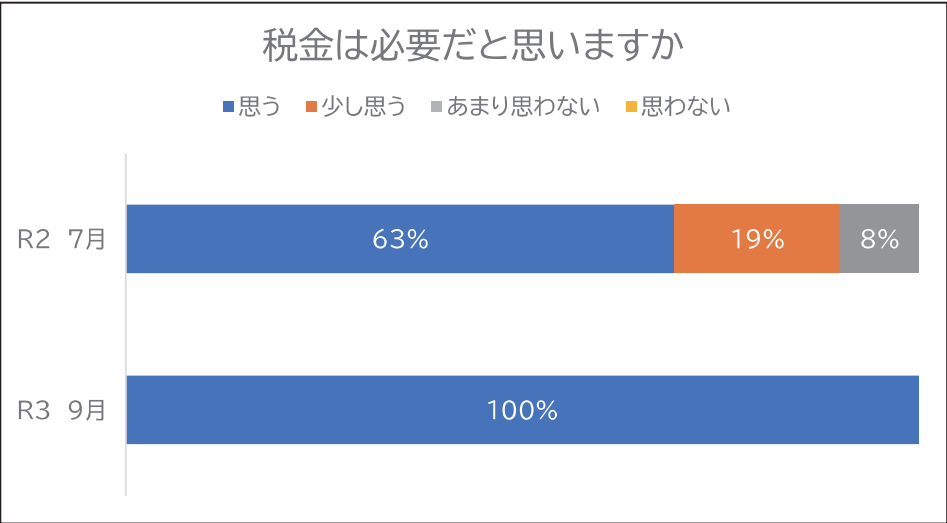
4 研究の成果と課題

全校生徒に税に関するアンケートを令和2年7月と令和3年9月に実施した。以下はアンケートの内容とその結果である。

税についてのアンケート

- 1 税について興味・関心がありますか？
ア ある イ 少しある ウ あまりない エ ない
- 2 税について家庭で話すことがありますか？
ア ある イ 少しある ウ あまりない エ ない
- 3 税に関するニュースに注目しますか？
ア する イ 少しする ウ あまりしない エ しない
- 4 税金は必要だと思いますか？
ア 思う イ 少し思う ウ あまり思わない エ 思わない
- 5 税金が私たちの生活に役立っていると思いますか？
ア 思う イ 少し思う ウ あまり思わない エ 思わない
- 6 税について学ぶことは必要だと思いますか？
ア 思う イ 少し思う ウ あまり思わない エ 思わない





アンケートの結果から、どの項目も「ある」、「少しある」、「思う」、「少し思う」の項目が増えている。全体を通して、租税教室で税のしくみや種類、日本の借金などについて学び、税に関する作品やNIE活動で生徒一人一人が税について考える活動などを通して、わずかではあるが、このような結果につながったのではないかと考えられる。特に「税金は必要だと思いますか」、「税金が私たちの生活に役立っていると思いますか」、「税について学ぶことは必要だと思いますか」という質問に対しては、全生徒が「思う」に回答しており、租税教育を通して税の必要性や税について学ぶことの大切さを考えることができたと感じ、税が私たちの生活に欠かせないものであるという思いが強まっていることが分かる。また、令和3年度の租税教室では、生徒が自ら予算案のテーマを決め、予算を組んだことで、国や社会のあり方を主体的に考えることができるようになったのではないかと思う。

課題としては、アンケートの結果から見てわかるように、「税に関するニュースに注目しますか」という質問において、「する」が増加しているが、「あまりしない」、「しない」の割合が変化していない。今後は、社会科の中で税に関するニュースについて提示したり、今まで以上にNIEコーナーを利用したりすることで、日頃から生徒が税について接することができるようにしていきたい。また、「税について家庭で話すことがありますか」という質問において、「少しある」が増加してはいるものの、「あまりない」、「ない」の生徒が他の項目に比べて多く、家庭で税について話す機会が少なく、保護者への啓発が必要だと考える。

2年間の研究を行ってきたが、租税教育の取組が社会科を中心とする取組に偏ってしまったので、多くの教科で教科横断的に実践できる方法を考え、取り組む必要があり、さらに税に関する興味・関心を高めるとともに、正しい知識と理解を深めていくことができるよう、今後に生かしたい。

5 おわりに

令和2年度から令和3年度の2年間にわたり、租税教育研究委嘱校として、「租税教育を通して、税に対する興味・関心を高めるとともに、税に関する知識を高め、社会を支える態度や資質を育成するにはどうすればよいか。」を研究主題に取り組んできた。伊集院税務署、財務省九州財務局鹿児島財務事務所、その他関係機関の方々の協力で、生徒や教職員、保護者が租税教育を通して、興味・関心だけでなく、税に関する知識を高めることができた。このような有意義な実践研究の機会を与えていただいたことを、大変感謝している。

今回の取組を通して、生徒自身が税について学び、税の役割や重要性を知ることで、将来社会に出た時、社会の一員として主体的に社会を支えていこうとする態度や資質を育むことができたと考えている。今後とも税について学ぶ機会を積極的に設定していきたい。来年度以降も、学びを止めることなく継続して税に関する学習を深め、租税教育を推進していきたい。

参考文献 鹿児島県租税教育研究会「租税教育の実際」 鹿児島県租税教育審議会
中学校学習指導要領・解説 社会科編 文部科学省
財政学習教材「日本の財政を考える」 財務省

校歌

作詞・作曲 嶽崎政美

- 1 風かおる この山村に
今鳴りびびく 自治の鐘
みどりみどりにつつまれて
文化は ここに花と咲く
- 2 はつらつと 伸びゆく生命
友と手をとり 新しい
明るいあすの 日本を
になう力を そだてつつ
- 3 さんさんと 輝く太陽
力と望み 湧くところ
嵐におじず たゆみなく
理想をめざす 土橋中

